愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	公認心理師の職責		
担当者(Instructors)	吉村 道孝	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

公認心理師として働くにはどのような業務内容と職責があるのかについて学習する。特に、心理支援の専門家として求められる態度や能力はどのようなものがあるのかについて事例を取り上げながら進める。グループワークやディスカッションを積極的に取り入れる。大学院へ進学し公認心理師を目指す学生には受講必須の講義であり、心理支援業務に携わりたい学生の履修を歓迎する。また、本講義は公認心理師指定科目であるため、講義参加への積極的な姿勢を求める。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式でおこなう。資料や事例にもとづいて、グループワークやディスカッションも取り入れる。公認心理師の職業を理解することはもちろんのこと、倫理的課題や葛藤場面などの事例を用いながら自分で考え、他者と意見交換することを重視する。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	公認心理師とはどのような資格か＆ガイダンス	公認心理師という資格や、公認心理師法について学習する。	□
第2回	心理支援に必要な技能とは何か	公認心理師が必要とする能力は何かついて学習する。	□
第3回	心理支援の専門職に求められる技能とは何か	心理支援をおこなう者として、知識や自己理解を深める必要性を学習する。	□
第4回	心理支援の専門教育とは何か	公認心理師として、何を学習し、どのような学びをすべきかと学習する。	□
第5回	公認心理離の法的義務と倫理	心理支援業務における、適切な情報管理と法的義務について学習する。	□
第6回	専門職としての支援とは何か	専門職として、「クライエントを助ける」とはどのようなことかを学習する。	□
第7回	心理支援に関する情報管理	心理支援における情報共有と秘密保持について学習する。	□
第8回	チームとしての多職種連携	心理支援では、たくさんの職種と連携する必要があることを学習する。	□
第9回	保健医療分野における公認心理師の業務	病院など医療保健分野での公認心理師の活動について学習する。	□
第10回	福祉分野における公認心理師の業務	子どもや高齢者など福祉分野での公認心理師の活動について学習する。	□
第11回	学校・教育分野における公認心理師の業務	学校など教育場面ばど教育分野での公認心理師の活動について学習する。	□
第12回	司法・犯罪分野における公認心理師の業務	犯罪など司法・犯罪分野での公認心理師の活動について学習する。	□
第13回	産業・労働分野における公認心理師の業務	企業など産業・労働分野での公認心理師の活動について学習する。	□
第14回	公認心理師としての生涯学習	公認心理師として、求められる自己研鑽について学習する。	□
第15回	公認心理師の将来展望＆質疑応答	多様化する社会の中で、公認心理師としてどうあるべきかについて学習する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習：授業開始前に、授業で扱われるテーマに関わる事例・出来事に関する先行文献などをインターネット等で調べてくる。（２時間）

事後学習：講義を受けて振り返り、興味のあったポイントをさらに深く学習する。不明な点は次回講義の小レポートに記載すること。（２時間）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回講義後に小テストもしくは小レポートを実施し理解度を確認する。次回の講義の冒頭で疑問点や課題を共有する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	公認心理師の役割を理解する。特に、法的義務や倫理、支援を要する者の安全確保等について身につける。また保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要５分野における業務について概説でき、多職種連携・地域連携による支援の意義について理解する。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回講義後に小テストもしくは小レポートを実施し理解度を確認する。次回の講義の冒頭で疑問点や課題を共有する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業内容に応じて資料を配付する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業内で適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		